

いま協同を拓く
2004全国集会
inながの

リレー報告

飯山市における 食農教育の展開

木内正勝（飯山市長）



私は、市長という立場以外に、子どもたちの野球の面倒を見ながら農業体験を取り入れたいろいろな活動をしていました。いま協同を拓く2004全国集会ということで、はじめに、協同の力、みんなの大勢の力で食農教育をやってきたということ、後ほど、飯山市における食農教育の取り組みについてお話をさせていただきたいと思っています。

「もう甘いアイスやジュースはいらない！すいかがたべたい！」から農園活動がスタート

飯山市における食農教育の展開ですが、今、食育という言葉が世の中で出てきていま

す。非常に広い意味がありまして、食べ物の話や食農教育などいろいろですけれども、今日は、みんなの力を寄せ集めて取り組んできた農業体験中心の食農教育活動について報告させていただきたいと思います。

私は、昭和55年から県職員として勤めながら、土、日曜日には地域における小学生のクラブチームの監督を約20年間やってきました。昭和61年の夏、暑い中、子どもたちと練習をして、休憩時間にアイスクリームやジュースを出したりしたのですが、子どもたちは、「もう甘いアイスやジュースはいらない！すいかがたべたい！」と言い出しました。「それじゃあ、来年すいかをつくって夏の練習の時に食べるかい。」と言ったら、「うん、それやるやる。」という話になりまして、そこから農園活動が始まりました。昭和62年から、グラウンドの近くの畑を10アールほど借りて、すいか、メロン、トウモロコシをつくり始めました。大人がやるわけではなく、子どもたちがやりだしたわけです。畑が良かったせいか、その年の気候が非常に良かったせいか、すいか、メロンは大豊作、トウモロコシも非常に良くできました。練習の時だけでは食べきれないので、地元の保育園の子どもたちを招待してすいかの試食会をやったりしました。

人気のチビッコ直売店

引き続き昭和63年にも、野球の練習の傍ら、すいかづくりと農園活動を続けました。その中で、そんなに良くできるならちょっと売ってみようじゃないかという話が出ました。少年野球の助監督が大工さんだったものですから、道端にちょっとした小屋を造って、チビッコ直売店ということですかやメロンを売りました。飯山市の常盤地区は農村地帯ですので、農家や保護者の方々が家で余った野菜等を持ち寄ってくれ、それを直売店で売ったところ、大好評でどんどん売れました。

売上金で東京ドームで野球

昭和63年、平成元年と子どもたちの直売店の売れ行きが非常に良く、平成2年には売上金が20～30万になりました。「こんなに貯まったけど、どうやって使う？」と、みんなの夢を聞きました。ちょうど東京ドームができたばかりの頃だったので、「東京ドームを借りきって野球をしたい。」という、当時としては全く突拍子のないような話が出まして、「えっ。」と思ったのですが、「よし、じゃあやってみるか。」となりました。ですが、東京ドームは予約でいっぱい、それでもなんとか、ということで、キャプテンと副キャプテンが東京ドームへ手紙を書きました。そして、夏休み中の8月9日を取っていただきました。東京ドームを借りると、2時間で50万ですから、1秒が確か40円くらいです。非常に高いのですが、中学生の野球部も一緒に行くことになりまして、そうすると、大人も便乗しまして、全部で83人で東京ドームに行きました。子どもたちの試合、そして大人同士の試合を東京ドームでやりました。みんな大満足で、「もう死んでもい

い。」というようなことを大人が言いまして、それがテレビで放映されました。その後、2年に一度東京ドームへ行っています。

津軽常盤村遠征

平成2年、3年、4年とまた直売店を続けました。お金が貯まり、どうしようという話で、青森県に常盤村という村がありますが、そこへ行ってみたいという子どもたちの要望がありました。子どもたちが青森県常盤村の村長さんへ手紙を出しました。そこでよく受け入れていただきまして、子どもたちは野球の親善試合をしたり、弘前のすぐ近くですから、ねぶたを見せて頂いたりしました。非常に暖かく迎えていただいて、その後ずっと交流が続いています。同じ常盤の同盟交流ということで続いています。津軽の子どもたちも東京ドームへ是非行きたいということで、平成6年から2年に一度ですから、6回、青森県常盤村やそのほかの子どもたちのチームも連れて東京ドームを借りきって野球をしています。今年も行きました。農業体験をしたことが、そういったかたちになってきたということです。

丸なす宅配スタート 全国300人の会員へ

東京の農水省にいる一つ後輩が子どもたちの農園活動を聞きつけて、「何でも買えるお江戸で買えないもののひとつが丸なすだ。」と言い出しました。丸なすです。みなさん長いなすがほとんどだと思っていらっしゃると思いますが、この長野から飯山地方にかけては丸いなすが昔から栽培されております。大変美味しいものです。丸なすを東京でみんなに食べさせたいということで、友達に声をかけまして、最初は20～30人でした

が、その人たちに子どもたちが丸なすをつくって送ってほしいという話が出ました。20～30人ならなんとかなるのでは、と苗を植えて送り始めました。すると非常に好評で、20～30人が70人になり、100人になり、200人になり、300人を越してしまいました。今は400本という非常にたくさんの苗を植え付けています。

5月に子どもたちが400本の丸なすの苗を畑に一齐に植え付けます。そして、防風のためのネットをかけ、2～3週間後、今度は防風ネットを取って支柱をしっかり立てて、そこへ大きくなった苗を結わえるという管理を子どもたちがしています。そのほか草取りや、夏休みの作業で1週間に3回くらいの作業になりますが、丸なすを収穫して、それをふいて、箱詰めをして、宅急便で全国の日本丸なすクラブの会員にお送りさせていただいています。日本丸なすクラブは非常にユニークな活動を続けているところですけれども、子どもたちも皆さんのおかげで丸なすづくりを体験をさせていただいているわけです。丸なすづくりは平成5年からスタートして今年で11年を迎えます。子どもたちが今年もしっかりと栽培し、送り出しをしているという状況です。

広域の農業小学校開設 信越12チーム200名参加による大豆づくりとみそづくりスタート

飯山市の常盤地区の子どもたちだけが食農教育といいますが、農業体験をやっているのはもったいないということで、周りの市町村の少年野球クラブに声をかけまして、毎月1回集まって農業体験を約1時間やって、その後、親善交流リーグをやっています。最初は6チームくらいの参加でしたが、

最終的には新潟県の十日町や川西町、中里村からもチームが来るようになりました。木島平村、野沢温泉村等を含めて2市1町3村の子どもたち12チームが集まりました。これは平成6年からです。そんなことで、大勢の子どもたちが学校教育以外でいろいろな農業体験をして親善交流を図っているという動きになっています。

最近は、つくるものを大豆に統一しました。最初は豆を蒔いたのですが、鳥にやられて全滅したりいろいろな事がありまして、苗を育ててその苗を移植をするという作業を5月にしています。200人くらいの子どもたちが10アールの畑に入って作業します。子どもたちも割と慣れてきました。見ていても大変気持ち良く進みます。ただ、6～8月は草取りの作業が大変です。暑い中の草取りは子どもたちにとっては大変な作業ですけれども、なんとかこなして10月に収穫をし、みんなで集まったときに豆を煮て、こうじと混ぜて、味噌をつくることもやっています。

このように、津軽の常盤村交流、丸なすの交流、そして広域の農業小学校の活動を行っていますが、私は2年前に市長になったものですから、そちらの実務は全くなりませんでした。いろいろ協力していただいた皆さんにお任せになっているわけですが、昨年、3つの取り組みをしている皆さんでNPO法人を取ろうという話になりまして、NPO法人化をしたところです。今まで続けてきた農業体験や食農教育といった体験活動を、今、NPO法人によって維持している状況です。これもひとつの大きな協力の力ではないか、と思っているところです。

そのほか、飯山市内では広い意味での食農教育があります。1つはセカンドスクール



の開設です。今年は東京都の武蔵野市や横浜市の小中学校 58 校 7500 人の子どもたちが、飯山市の戸狩観光協会や信濃平観光協会の民宿に 10 人ずつくらい、3泊4日から4泊5日で泊まって、その農家のお父さんお母さん、おじいさんおばあさんと一緒に農業体験をしています。田植えから始まって、野菜づくりやそば打ち、稲刈り、そのほかいろいろな農業、農村体験をしています。子どもたちは田舎のお父さんお母さんにうんとなつて、帰るときには涙を流してお別れをするというようなことがあります。そういった面では、これも大きな食農教育の一環ではないかな、と思っています。

JA あぐりスクールの開設

また、地元の JA 北信州みゆきが、あぐりスクールを開設しています。平成14年から、飯山市を中心として小学生を120人集めて、半日から1日かけていろいろな農業体験をしています。毎年4月から10月頃までの毎月1回、必ず実施されています。

全校米づくり体験

そのほか飯山市で取り組んでいるのは、飯山市には小学校が8校、中学校が3校ありますが、総合学習の時間を中心に米づくり体験をしています。全校で実施です。市内の

農業委員会の皆さんが中心となって音頭を取っています。

飯山市では、NPO で取り組んでいる食農教育、セカンドスクール、JA あぐりスクール、そして全小中学校における米づくり体験活動という幅広い取り組みをさせていただいています。全国的にはもっと素晴らしい取り組みをされている地域もあるかと思いますが、私どもの地域でもそれに負けず劣らず、いろいろな取り組みをしているところです。田園都市飯山市ですので、農業、農村体験を取り入れた食農教育に力を入れてきましたし、これからもそうしていかなければならないと思っています。

今年の9月25日には、NPOの皆さんにお願いして食育甲子園 in 飯山というイベントを開催しました。行政がやっているわけではありません。県内外から大勢の皆さんにお集まりいただきまして、いろいろな取り組みの事例を報告し、課題等についても話し合いました。とにかく実践、みんなで実践、そして命を育てることにチャレンジということで取り組んでいます。

現在までのいろいろな取り組みのお話をさせていただきましたけれども、実践することによって食育の今後の未来が見えてくるのではないかとそんな思いです。私も市長ということで、実践面は離れたわけですが、約20年前からのいろいろな取り組みの中で、とにかく実践をして、食育がこれからどう進むべきかをしっかりと模索してまいりたいと考えています。